



はるみや

1997.4 No.2



変わらぬライブラリアンの使命

美原町教育委員会参与 加藤和基



大阪府立中央図書館は開館1年目を迎えます。自治体最大級の図書館ということで、日本国内はもとより外国からも大勢の方々が見学に来られ、その数6千人を超えました。

来館された皆さんの印象をお聞きすると、まず重厚な外観に圧倒され、次に館内のゆったりとした広さに感心し、大図書館の風格と格調の高さを感じるということが多くの人々の感想でした。

また、障害を持つ方々が健常者と同様に利用できるよう配慮された数々の設備と図書館サービスは、これまでの図書館にはなかった総合的な生涯学習の場のあり方を考えさせられるとお褒めの言葉をたくさん戴きました。

さらに、380席の席数と親子室を持つライティホールは、間口12.5m、奥行10mの本格的な舞台と豪華な錦絵の緞帳を備え、多様な文化を発信する場として、府立中央図書館のもう一つの大きな目玉であり、この様なホールを図書館がもっていることに驚かれます。

我が府立中央図書館は、いま最もグレードの高い公共図書館として全国から注目を浴びていますが、それだけに責任の大きさを痛感せざるを得ません。

一昔前の図書館は、調査研究等を目的とする一部の限られた人々か学生たちの場でしたが、今日の図書館は幼児からお年寄りまで多くの人たちが気軽に利用する施設となっています。

めまぐるしく変化する社会の進展と国際情勢の中で、生涯学習の場として図書館が果たす役割はますます大きなものとなってくるでしょう。

府立中央図書館には人類の歴史と知識がぎっしりとつまっています。

偉大な先人たちの思想や哲学、その時代の世相や史実を具体的に語り継いだ貴重な文献が知恵の山並みを築き、その数130万冊にもものぼっています。

昭和40年代から全国に公共図書館は続々と建設され、サービスのあり方も随分変わってきました。しかし、図書館の使命が資料の提供にあることだけは不変のものであり、多くの資料を広く収集して、利用者の要求にいかに応えられるかでその評価は下されます。

そのためには、利用者迅速で的確な情報を提供できる有能な司書職員の育成が必要であることはいうまでもありません。

府立中央図書館の誇りえることとして、図書館業務に携わる職員が全員司書であるということもあげられます。

司書としてキャリアの差はあるにしても、図書館が好きで専門職としての誇りと熱意は、若い職員もベテランの職員も同じように持っています。

司書の軍団を率いる司書部長として、夕陽丘図書館そして昨春から中央図書館の舵をとってまいりましたが、この春を以て34年間の司書生活に終止符を打ちます。

図書館は、永い歴史の道程の上に一步一步築かれていく知識の殿堂であり、後世に引き継がれる人間の知恵の館であります。

年々職員は変わっても、府立図書館のよき伝統であるライブラリアンとしての誇りとサービス精神を持ち、職員同士が切磋琢磨することによって、府立図書館は府民から信頼される図書館として永遠に活用されるでしょう。“年々歳々花相似、歳々年々人不同”（唐の詩人劉廷芝「代悲白頭翁」より）

(当館前司書部長)